授業概要

英語の様々な言語現象について、大人の文法に基づいてたてた規則・原理を探っていく Chomsky の生成文法の結果説に基づく研究成果を整理し、子供の言語習得のプロセスを律する動的な法則を探究する Kajita の動的文法論に基づいた実証的な研究の観点から見直し、さらに生成文法では周辺的であるとして退けられ、見逃されがちな新たなデータを発掘するという観点から有意義な研究成果を概観していく。イントロも兼ねて Jim Miller (2011) *A Critical Introduction to Syntax, Continuum*.に基づいて、そこで示されたデータが動的文法論から見るとどのように分析できるかという観点から講義を行う。

授業計画

第1回	Introduction
第2回	Theory, Data and Analysis
第3回	Dependency Relations (1)
第4回	Dependency Relations (2)
第5回	Noun Phrase and Non-configurationality
第6回	Constructions
第7回	Grammaticality
第8回	A Dynamic Model of Syntax
第9回	Grammar and Semantics: wh words
第10回	Grammar and Semantics: Parts of Speech
第11回	Grammar and Semantics: Thematic Roles (1)
第12回	Grammar and Semantics: Thematic Roles (2)
第13回	Language Complexity
第14回	First Language Acquisition
第15回	Summary and Residual Problems for Future Studies
第16回	筆記試験

到達目標

人間のこころ／脳に収められた内部言語としての英語を自然科学の方法論を用いて原理的に説明するというとはどういうことかということをも具体的な構文について書かれた研究論文を輪読しながら体得することを目指す。

履修上の注意

授業の3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける資格を失う場合があるので注意すること。講義中はきちんとノートをとること。学生には、英語の文献を声に出して読んでもらい、そのあと日本語で説明・解説を加え、議論することになる。

予習復習

配布された印刷教材をした読みして、疑問点、問題点についてあらかじめ整理しておくことが望ましい。また、授業後、ノートや教材を読み返し、内容を整理しておくことが望まれる。

評価方法

出席点、授業への参加度、ノート点検、毎回行う前回の復習小テスト、定期試験の結果などを総合的に見て評価する。

テキスト

こちらで用意したプリント教材を使用する。参考文献については適宜言及する。
参考文献: Masaru Kajita (1977) "Towards a Dynamic Model of Syntax," *Studies in English Linguistics* 5, pp. 44-76. M. Wiltschko (2014) *The Universal Structure of Categories: Towards a Formal Typology*, Cambridge University Press.